長崎市立大園小学校　校長室だより　Ｎｏ17

今日の一言

６．８．９　校長　渕上　卓也

大園小学校　校歌

長崎は<u>７９回目の祈りの日</u>を迎えました。被爆された方々の高齢化が進む中、<u>「大園小学校からも平和を広げていこう。」</u>を意識しながら、本日平和集会を開きました。渕上が子どもたちに伝えた内容をご家庭にもお伝えしておきます。

<u>大園小学校の校歌を作曲してくださった方は、「木野普見雄」さん</u>という方です。長崎市役所に勤務されながら、<u>たくさんの学校の校歌を作曲されていて、渕上が赴任した学校では、高尾小、西城山小、そして大園小と３校目</u>です。今日の平和集会では、この「木野普見雄」について話をしました。

原爆投下時、木野さんは 37 歳で、<u>城山町１丁目（現在の城栄町）に奥様と幼い娘さん息子さんと暮らしていらっしゃいました。</u>昭和２０年８月９日、勤め先の長崎市役所で原爆に遭い、一晩掛けて自宅に戻られたそうですが、自宅の周りは一面焼け野原で、<u>原爆投下から３日目、３人の遺骨を見付けられた</u>そうです。

<u>「歌曲を通じて原爆の悲惨さや戦争を再び繰り返すことのないよう訴えたい。」「原爆の犠牲となった７万５千人の尊い命に捧げる哀悼のしるしでありたい。」</u>木野さんは、原爆や平和にちなんだ歌曲をたくさん作ってこられました。多くの子どもたちや先生方の尊い命が奪われた<u>山里小学校で歌い継がれる「あの子」</u>や、<u>城山小学校で歌い継がれている「子らのみ魂よ」</u>も、木野さんが作曲されたものです。

木野さんは、１９７０年に原爆症でこの世を去られました。<u>大園小学校の校歌を手掛けてくださる際にも、きっと木野さんは平和への願いや思いを込めて作曲された</u>に違いありません。<u>木野さんの平和への願いや思いを込めて、これからも大園小学校の校歌を、大切に歌い続けていきたい</u>と思います。

＜今日の一句＞
歌声で
世界に平和
届けよう　　卓也